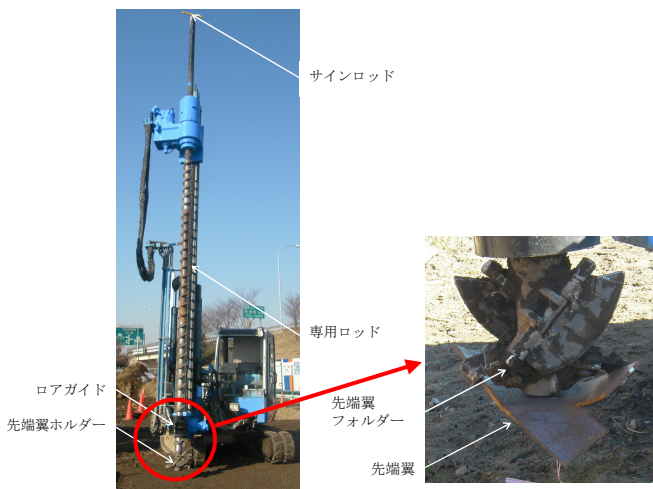


【技術の名称】 CPP工法 —先端翼付細径鋼管を用いた地盤補強工法— (改定2)	性能証明番号：GBRC 性能証明 第16-03号 改2 性能証明発効日：2024年3月26日 性能証明有効期限：2027年3月末日
	【取得者】 有限会社丸高重量 株式会社 GIR

【技術の概要】

本技術は、先端翼付細径鋼管を地盤中に埋設し、この支持力と基礎底面下地盤の支持力を累加して利用する地盤補強工法である。本技術の特徴は、細径鋼管を先端翼埋設後に結合する施工法を開発することで、先端翼の支持力確保に必要な耐力を有する細径鋼管を使用可能としていることである。



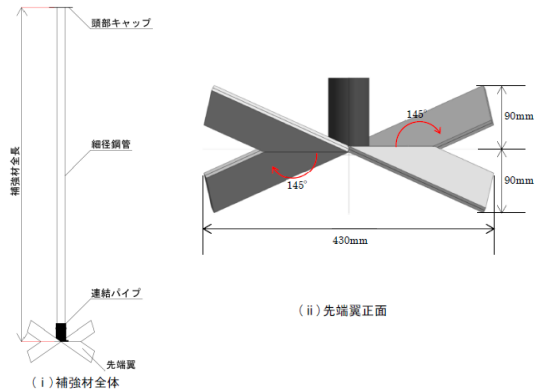
(i) 使用設備の一例 (ii) 先端翼ホルダー
写真-1 使用設備の外観

【改定・更新の内容】

- 新規：GBRC 性能証明 第16-03号 (2016年7月12日)
更新：GBRC 性能証明 第16-03号 (更1) (2019年7月26日)
改定1：GBRC 性能証明 第16-03号 改1 (2021年3月3日)
- ・基礎底面下地盤の適用範囲の変更
 - ・短期許容支持力度算定式の追加
 - ・補強材の材質の追加
 - ・最大施工長の変更
- 改定2：GBRC 性能証明 第16-03号 改2 (2024年3月26日)
- ・申込者の変更 (株式会社 JFD エンジニアリングの脱退)

【技術開発の趣旨】

先端翼付鋼管を用いる地盤補強工法では、回転貫入施工時のトルクを上回る耐力を有する鋼管が必要になるが、この鋼管の耐力が支持力に対して過大となることが多く、鋼管使用量が增大してコスト面で問題となっている。本工法では、これを解消することを目的として、先端翼を所定深度まで回転貫入した後、細径鋼管を挿入して両者を結合させる施工法を開発し、コスト削減を可能としている。



【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、補強地盤の鉛直支持力のみを対象としており、以下の通りである。
申込者が提案する「CPP工法 設計施工マニュアル」に従って施工された補強地盤の長期ならびに短期荷重時の鉛直荷重に対する支持能力は、同マニュアルに定めるスクリーウエイト貫入試験の結果に基づく支持力度算定式で適切に評価できる。
また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。

表-1 部材の仕様

部材名称	仕様
先端翼	形状：幅 250 mm 長さ 440 mm (加工前形状)、 厚さ：9 mm 材質：SS400 適合品 (JIS G3101 一般構造用圧延鋼材)
細径鋼管	直径：48.6 mm、厚さ：2.4 mm、長さ：2~7m 材質：降伏耐力 355N/mm ² 、防食のためのメッキ処理が施されているもの

表-2 適用範囲

項目	詳細
適用地盤	粘性土 (ローム地盤を含む) および砂質土
適用建築物	①地上 3 階以下 ②建築物の高さ 13m 以下 ③延べ面積 1500 m ² 以下 (平屋に限 3000 m ² 以下) ④長期接地圧 50kN/m ² 以下 ただし、玄関ポーチ基礎のような簡易な独立基礎にも適用できる。
適用深度	基礎底板から下方に 2~7m
施工間隔	最小 900mm、最大 2,300mm

【本技術の問合せ先】

CPP工法協会 担当者：長谷川 泰利 問合せ先：<https://cpp-assoc.com/contractor/contact/>
〒959-0205 新潟県新潟市江南区沢海 3-4-26 有限会社丸高重量内 TEL：025-385-4583 (代)